

第16回企画展

# 明治の呉と海軍

— 軍港と市民の暮らし —



平成22年

平成23年

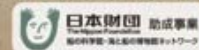
## 11月27日 土 → 2月13日 日

会場 **大和ミュージアム 1階大和ホール**  
AM9:00~PM6:00

休館日 **火曜日** (ただし年末・年始 12月29日~1月3日は無休)

料 金 一般(大学生以上).....400円(800円)  
高 校 生.....300円(500円)  
小・中 学 生.....200円(300円)  
\*( )内料金は常設展示とのセット料金

協 力 船の科学館・海と船の博物館ネットワーク



問い合わせ 千737-0029 広島県呉市宝町5番20号  
呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)  
Tel:(0823)25-3017 Fax:(0823)23-7400  
<http://www.yamato-museum.com/>



海軍が来る前の呉は、この地  
**ごあいさつ** を訪れた文人の漢詩や絵図  
 などから、前を海に後ろを山に

囲まれたのどかな港町であったことが分かります。明治19(1886)年、第二海軍鎮守府に選定された呉は、この年から本格的な軍港の整備が始まります。そして明治22(1889)年、呉海軍鎮守府が開庁。軍港には海軍の拠点となる鎮守府や近代的な重工業の象徴である海軍工廠が併設され、将官や水兵に代表される軍人や海軍工廠で働く「職工」などが集まりました。軍港の整備とともにそれまで大部分が畑だった平地では、近代的な街づくりも進められていきます。

呉の人口は、海軍が来る前の明治18(1885)年には、約1万7千人でしたが、明治22年に海軍鎮守府が開庁されてからは、軍人や「職工」などの転入により、明治42(1909)年には、約10万人に膨張、この24年間だけでも、約6倍近くに膨れあがり、街は軍人、「職工」、市民などで賑わいました。

市街地には、区画化された道路、鉄道、電気、ガスなどが敷設され、大衆娯楽施設として演芸場や映画館などが開館、通りには「ビール」「すき焼き」の看板も見られ、近代化されていく呉の街の様子が展示中の写真などからもうかがえます。

展示内容としては、海軍が来る前ののどかな呉を詠んだ頼杏坪(頼山陽の叔父)の「漢詩」や幕末の広島藩主・浅野長訓が巡察した際、呉から広島までを描いた「藩主廻在の図」の紹介と、海軍が来た後に近代的な街並の象徴であり、呉の顔となっていく明治の「中通」の一部を再現します。

のどかな港町であった呉に、海軍が進出することにより、驚くほどのスピードで近代的な「軍港都市」が形成されていきますが、本企画展では、呉に海軍が来る前と来た後の街と人々の暮らしの変化を、明治時代を中心に当館が収集した当時の絵図や写真類を始め、多様な資料から紹介します。

呉市海軍歴史科学館(大和ミュージアム)  
 館長 戸高一成

主な展示物



中通千日前風景  
 明治末期の中通(呉市入船山記念館・藤井茂氏作)



市街電車開通当時の様子  
 二河橋東詰付近の車庫(福田一雄氏提供)



明治末期のピアガーデン 日英館  
 (加納光治郎氏提供)



人力車  
 (福山自動車時計博物館提供)



双眼鏡  
 呉海軍工廠で最初に作られた製品  
 (呉市入船山記念館提供)



世界館 映画館  
 (当時の活動写真館 若山洋作氏提供)



「藩主廻在の図」  
 広島藩主・浅野長訓の地方巡察に際して、描かれたもの(澤原梧郎氏提供)

企画展関連イベント

人力車 記念写真撮影会	期間 企画展開催中の土・日 13:00~14:00
	場所 大和ミュージアムの正面玄関外
	料金 500円
企画展記念 限定ビールの販売 (330ml瓶)	期間 企画展開催期間中
	場所 ミュージアムショップ
	価格 550円



電車	JR呉駅から徒歩約5分
バス	呉市営バス宝町中央循環線 「ゆめタウン大和ミュージアム前」 下車徒歩1分
フェリー	呉中央棧橋から徒歩約1分
自家用車	クレアラインICから約5分
駐車場	●第1専用駐車場/65台 1時間100円(24時間営業)
	●第2専用駐車場/220台 1時間100円(8:00~24:00)

呉市海軍歴史科学館  
**大和ミュージアム**  
 〒737-0029 広島県呉市宝町5-20  
 Tel:(0823)25-3017/Fax:(0823)23-7400  
<http://www.yamato-museum.com/>

※表紙にあるビール瓶は、1988年にキリンビールより複製されたものを使用しています。  
 ※表紙:明治末期の中通(加藤恭夫氏提供)